



花と緑と音楽の
おもてなし



第3回
ひろしま国際平和文化祭
HIROSHIMA FESTIVAL 2026

広島交響楽団

2026「平和の夕べ」 コンサート

— Music for Peace 「祈り」 捧げて —



指揮:マティアス・バーメルト

Conductor: Matthias Bamert

©Yasuo Fujii

Program

壮大なコーラルは
教会のオルガンのように:
人々を「祈り」へと導く



ピアノ:萩原麻未

Piano: Mami Hagiwara

©Marco Borggreve



ヴァイオリン:成田達輝

Violin: Tatsuki Narita

©Marco Borggreve



細川俊夫:ヴァイオリンとオーケストラのための「祈る人」

Toshio Hosokawa: Prayer for Violin and Orchestra

ラヴェル:左手のためのピアノ協奏曲ニ長調

Ravel: Piano Concerto for the Left Hand in D major

フランク:交響曲ニ短調 FWV 48

Franck: Symphony in D minor FWV 48

客演コンサートマスター:小林 壱成

Guest Concertmaster: Issei Kobayashi

2026 8.6 木 18:45開演
(17:45開場)

広島文化学園HBGホール 広島市中区加古町3-3

Thursday August 6, 2026 Start 18:45 (Open 17:45)
Hiroshima Bunka Gakuen HBG Hall

チケット料金

S:¥6,000 A:¥5,000 (学生:2,500円)

学生席は小学生以上、25歳以下の学生が対象。要学生証。
(広響事務局電話のみで取り扱い)

チケット発売日

2026年6月9日(火)

プレイガイド

広響webチケット、広響事務局

※就学前のお子さまのご入場はご遠慮ください。※開演時間に遅れられた場合、入場に制限がございます。
※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等を変更する場合がございます。

主催

広島市
公益財団法人広島市文化財団
公益社団法人広島交響楽協会
中国新聞社

助成



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人 合人社財団

プレミアム協賛

株式会社イズミ



お問い合わせ

広響事務局
082-532-3080

公式ホームページ

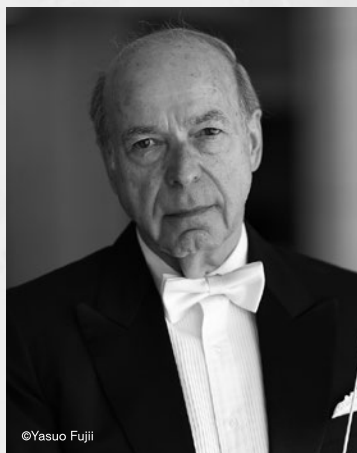
<http://hirokyo.or.jp/>

広島交響楽団

2026「平和の夕べ」コンサート

— Music for Peace 「祈り」 捧げて —

巨匠マティアス・バーメルトは10年ぶり2回目となる「平和の夕べ」への登壇。その時のソリストをつとめたのも萩原麻未であった。今回はソリストに成田達輝を加え、細川俊夫作曲の「祈る人」では、作品そのものを、人々を見守り祈りを捧げる存在へと昇華させようとした。ヴァイオリン独奏はシャーマン（人）としての祈りの歌を紡ぎ、オーケストラと呼応しながらやがて一つになる。萩原麻未が弾くラヴェルの左手のための協奏曲は、戦争により右手を失ったピアニストのために作曲され、多くの人々を勇気づけた。フランクの二短調交響曲はフランク特有の和声と歌に彩られた名作。終盤での壮大なコーラルは教会のオルガンのように、人々を「祈り」へと導く。



指揮：マティアス・バーメルト Conductor: Matthias Bamert

スイス生まれ。作曲をブーレーズとシュトックハウゼンに師事。指揮者として、北米でジョージ・セルに弟子入りした後、ストコフスキーの助手となり、マゼール時代のクリーヴランド管弦楽団で常任指揮者を務めた。これまでに、バーゼル放送交響楽団およびロンドン・モーツァルト・プレイヤーズの音楽監督、ルツェルン音楽祭の監督、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団およびニュージーランド交響楽団の首席客演指揮者、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団の副客演指揮者、西オーストラリア交響楽団およびマレーシア・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者、韓国のテジョン・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者を歴任。2018年春、札幌交響楽団の首席指揮者に就任し、2024年3月まで同職を務める。また、クリーヴランド管弦楽団、シカゴ交響楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、パリ管弦楽団、ウィーン交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団等に客演し、確固たる地位を確立している。80枚以上の録音作品をリリースしており、その多くは国際的な賞を受賞している。



ヴァイオリン：成田達輝 Violin: Tatsuki Narita

ロン＝ティボー国際コンクール（2010）で第2位およびSACEM著作権協会賞受賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール（2012）にて第2位およびイザイ賞受賞。その超絶技巧と詩情豊かな音楽性に「バガニーニの再来」とフランス紙で評された。

著名指揮者および国内外のオーケストラと多数共演し高い評価を得るとともに、リサイタルやジャンルにこだわらない様々なアーティストとの室内楽においても圧倒的なテクニックと多彩な表現力を披露している。現代作曲家とのコラボレーションも積極的に行っており、2013年サントリー芸術財団サマーフェスティバルで演奏した酒井健治作曲ヴァイオリン協奏曲《G線上で》は芥川作曲賞を受賞、S.カンブレラン指揮／読売日本交響楽団と演奏した一柳慧作曲《ヴァイオリンと三味線のための協奏曲》（世界初演）の公演は2022年度芸術祭大賞を受賞した。2022年9月には坂本龍一のプライベート録音に参加し「ソナタ」等を演奏。海外での演奏活動も積極的に行っており、近年では、韓国平昌やミンスク、ギリシャ・イドラ島の音楽祭に参加したほか、2024年4月にはピアニスト福岡洸太郎と中央アジア4ヶ所を回るツアーを行った。

使用楽器は、A.ストラディヴァリ黄金期の「Tartini」1711年製（宗次コレクションより貸与）。



ピアノ：萩原麻未 Piano: Mami Hagiwara

広島県出身。2010年第65回ジュネーヴ国際コンクール〈ピアノ部門〉において、日本人として初めて優勝。年によって1位を出さないこの伝統あるコンクールでの8年ぶりの優勝となった。第27回バルマドーロ国際コンクールにて史上最年少の13歳で第1位。広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院及び同音楽院修士課程、パリ地方音楽院室内楽科、モーツァルトウム音楽院を卒業。これまでに、日本、フランスを中心に、スイス、ドイツ、イタリア、ベネズエラ、ベトナムなどで演奏活動を行っている。国内主要オーケストラのほか、スイス・ロマン管、フランス国立ロワール管、南西ドイツ放送管などとも共演を重ねているほか、ラ・ロック・ダンテロン等の様々な音楽祭にも招かれている。広島市民賞のほか、第13回ホテルオークラ音楽賞、第22回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、第22回出光音楽賞、文化庁長官表彰（国際芸術部門）など多数受賞。メディアでは「題名のない音楽会」「クラシック倶楽部」「名曲アルバム」等のテレビ、ラジオ番組にも多数出演。現在東京芸術大学准教授として後進の指導にも力を注いでいる。